

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「心」という理念を作り掲げている	理念を心に取り組んでいる
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「心」という理念を事務所壁に掲げ他職員と共有をし、入居者の心に寄り添うように日々取り組んでいる	職員と話合ったりして、理念を理解し共有しようと心がけている
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域の老人サロンに家族と参加されたりしているが、現在は職員数が少ない為、ご家族のみの地域参加となっている	地域の運動会などに参加している
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	犬の散歩により、近所の人に声をかけてもらえるときがあるが近所にあまり家がないので、気軽に立ち寄ってもらえていない	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	以前は地域の町内会に入会しており、班長にもなっていたが自治会の方針が変わり会社・施設のような事業者は入会できなくなり、地縁団体として一般家庭が対象になり脱退しているが運動会や敬老会に参加し交流を図っている	できるだけ地域活動に参加して行きたい(祭り・運動会など)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	家族の送迎を行ったり、入居者が自宅で過ごせるよう送迎を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	多忙な日々なので、外部評価を見直しの時期と考え、日頃の業務を再確認している		評価結果を職員同士で話し合い改善に努めている
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、入居者の生活をより良いものにしていく為のものと考えている、現在はホームの問題点は何であるかを家族会を中心にサービスの向上を図っている。家族会が行ったアンケートの結果に基づき改善を検討している。		・ご家族と話し合い機会をもっている。 ・運営推進会議を堅苦しいものではなく、入居者・家族を交え昼食会や茶話会等と実際の生活を見る場として、構成員の参加を呼び掛けたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	千葉市認知症高齢者グループホーム連絡会の役員をしているので、懇談会などで話し合う機会を作っている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・管理者はケアマネージャーであるため、ある程度は理解しており必要な方には話している。 ・職員に対しては研修等行っていない。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加している。 研修を受けた職員を中心に、ホーム内で勉強会を行い、防止に努めている。		今後も研修に参加し、勉強会を通して職員に意識づけし、取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には十分話をし納得した上で契約を交わしている。解約時にもご家族へ説明し理解をしていただいている。退居後の受け入れ先についても情報提供したり、探すなどしている。</p>	<p>今後も、利用者・家族の理解、安心感を得られるよう、十分に時間をかけていきたい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・入居者・家族との話し合いを積極的に持ち、運営に反映している。 ・外部者へ表す機会を設けていない。</p>	<p>市の相談員制度を活用したいと考えている。(申込時期を逸している)</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>・家族の面会時や電話連絡を行い、状態や様子を個々に報告している。 ・「きらにこ新聞」という新聞を作っており定期的に家族へ送り、入居者の生活ぶりや職員の退職・入職を知らせている。 ・金銭面についてはその都度個々に電話連絡をしている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族が意見等言いやすいよう、話しかけるようにしている。外部に対しては、重要事項説明書に記載し契約時に説明している。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>個別に意見を聞くようにし、運営上の問題は管理者が取りまとめ本社担当者へ挙げている。ホーム内の問題に関しては、話し合い解決できるようにしている。個人の問題に関してはその都度、面接を行いはなしを聞くようにしている。本社方針として毎月個人面談を義務付けているが、なかなか時間が取れないのが現状である。</p>	<p>定期的に個人面談を行いたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者に合わせ落ち着いて生活できるよう、可能な限り勤務調整を行っている。ターミナル時期に関しては状況により夜間帯の人員調整を行う。</p>	<p>職員と話し合い手薄な時間帯を作らないようにしている。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・異動に関しては固定型を採用しているが、やむ負えず異動する場合入居者への影響のないよう努力している。 ・退職者に関しては、理由を明確にし留まれる条件があれば改善して、できるだけ引き止めている。(待遇面での離職が多く難し現状である)</p>	<p>本社との話し合いをして行きたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員研修を重要と考えているが、勤務内での研修は難しく時間外に行わざる負えない、その場合のコスト面の問題が生じ頻繁に行えないのが現状である。(公休・時間外・外部研修費などのコスト、当社では所内研修参加者にも手当を支給している。) 何度かに分けて行うようにしているが、職員への負担が大きく頻繁に行えない。</p>	<p>コスト面や職員への負担をかけないように検討し、色々な方面での研修を行いたい。(現在模索中)</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者はGH連絡会役員をしている為交流はある、その中でもGH間の職員交流をさせたいとはなしているが、日々の業務に追われ職員数も限られているため、外部との交流ができないのが現状である。</p>	<p>地域のGHとの交流を持ち職員だけでなく、入居者同士の交流を図れるようにしたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>・ストレスを軽減する為に、連続勤務をしないよう勤務割をしている。 ・希望休をシフト作成前に提出し希望に添う形を取っている。(突然の休暇願にも調整を取り対応している) ・本社では職場ストレスに対応した相談窓口を設けている。 ・できるだけ話を聞く機会を作っている。</p>	<p>有給消化ができない状態であり、有給を活用できる体制作りをしたい。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>・研修や本などで自分の心に響いたものを職員に話をしたり貸出を行ったりしている。 ・無資格者で資格取得を希望している職員には、当社で行っているヘルパー講座の支援費制度や従業員割引制度の活用を紹介している。</p>	<p>GHの在り方や認知症に対する考え方等もっと話せる時間を作っていけるようにしたい。</p>
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居、間もない入居者は環境変化で不安なため、常に声をかけ本人の話を聴き、不安や求めていることを職員間で共有し受け止め信頼関係を築けるよう努力している。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族に信頼されなければ、本人の不安を取り除くこともできないしホーム側の支援方針も確立されない為、家族とはコミュニケーションを十分取るようにしている。入居相談()→見学・相談・説明(家族だけの場合は後日本人同行し再度話を聞く)→体験入居→家族と相談(合意)→入居という流れをしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時には、どのようなことができるかを考え、リハビリであったり、マッサージ等利用している。また外出時車椅子でも利用できる福祉タクシーの手配等、その時々で対応している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いきなり入居するのではなく、体験入居をしていただいている。最高一週間としているが、その時々で家族と相談しながら馴染めるような方策と取っている。例：家族が泊まる・日中だけ過ごし馴染れてきたら泊まる等工夫している。体験入居の延長あり		できるだけ納得して入居できるよう支援している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔話を聞き一緒に笑ったり・悲しんだり共に過ごしている。また生きる力を学び、生きる知恵を教わっている。	○	もっと一緒に話をする時間を作りたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人が安心して、楽しく暮らせるよう家族と協力しあっている。施設としてではなく、家族の一員とした考えを持ち本人を支えられるような関係づくりに努めている。		職員全員が家族と気軽に話ができるような関係づくりをしたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの本人と家族の関係がどのようなものであったか、中立な立場から双方の思いを理解し、どのような関係が本人・家族にとってより良い関係を築けるよう本人の思い・家族の思いを聴き支援につなげている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族にも協力して頂きながら支援を行っている。手紙を書くことができる方は、手紙を書いて友人・知人に出しているが、迷惑と感じる方もおられるので、投刊しても良いか家族へ確認して出すようにしている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	普段何気なく生活する中で、お互いを意識を持ってもらえるような関わりを意識して支援している。入居者が入院等で不在だと、あの人はどうしたの？早く良くなるといいね等の声が聞かれる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>退居理由は様々であるが、退居後は殆ど関係を持たない。道で逢えば挨拶を交わす程度になってしまう。</p>		
<p>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>				
<p>1. 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者一人ひとりの人格を尊重し、入居時の事前の把握のみならず日々生活の中で暮らしの希望、意向が汲み取れるよう全職員が心がけ、情報交換を怠らないよう努めている。</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時事前調査に於いて把握された生活歴等の記録は各個人ファイルに納め必要に応じ全職員が閲覧できるようにしている。又、日々の会話の中で得られた新たな情報の共有にも努めている。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>日々変化する暮らしの現状をも、職員間で正しく共有できるよう、毎朝のミーティングでの意見交換や日報、申し送りノートを出勤時に読むことで総合的な把握を実施している。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>				
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者一人ひとりの人格を尊重し、入居時の事前の把握のみならず日々生活の中で暮らしの希望、意向が汲み取れるよう全職員が心がけ、情報交換を怠らないよう努めている。</p>		
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入居時事前調査に於いて把握された生活歴等の記録は各個人ファイルに納め必要に応じ全職員が閲覧できるようにしている。又、日々の会話の中で得られた新たな情報の共有にも努めている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々変化する暮らしの現状をも、職員間で正しく共有できるよう、毎朝のミーティングでの意見交換や日報、申し送りノートを出勤時に読むことで総合的な把握を実施している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	遠方から来られた、ご家族等に本人の居室に泊まっていたにている。その時々々に応じ事業所ができることは柔軟に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	毎週、音楽ボランティア(家族)が、来所して下さることが入居者の楽しみになっている。入居者の希望に沿えるよう、地域のボランティアに依頼中である。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向に合わせ、ご家族の協力を得ながら、地元のいきいきサロンを利用し趣味活動を支援している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括支援センターとの協働はしていない。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地元の病院と提携し、同病院が運営している訪問看護ステーションと契約し医療連携体制を取っている。各入居者は主治医を信頼し、月2回の往診時には、様々な相談をされている。又、状態により専門医への受診支援も行っている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力病院は特養・老健・GHを運営しているので、認知症に対しても相談している。以前は認知症に詳しい医師の受診を受けていたが人手がなく職員が付き添うことができなくなってしまった。ご家族だけでは日頃の状態がわからずうまく医師へ伝わらない。ご家族が対応できない等の理由で受診ができていない。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	毎週2回、訪問看護ステーション看護師が訪問し入居者の体調管理、相談を行っている。看護師とは入居者、職員共に気軽に話ができ信頼関係が築けている。24時間オンコールによる支援体制も確立できている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入居者が急変し入院が必要になった場合、入院できる体制が確立されている。その為医師・看護師との連携ができ、できるだけ早い段階で退院が可能となっている。退院後の経過を往診時や訪看訪問時に報告している。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合における対応に係る指針」を契約時に説明している。日常生活の中で衰えが目立ち始めた場合、ご家族に状態を話し、主治医から、今後あり得る変化と食事ができなくなった場合等の説明を受け、最期をどこで送るかを話し合いホームで最期を希望された場合は方針を決めている。ご本人が意思疎通が可能であればご本人の意向を優先に実施し、話し合いを持つ。		ご本人に日常会話の中で、最期は何処で過ごしたいかを聞いておきたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	看取り介護に関して「基本理念」「緊急時連絡体制」「看取りの流れ」「できること・できないこと」「看取りの原点」「ターミナル期の様相」等のマニュアル、資料を全職員に配布した上で、全体ミーティングを開き全職員に周知し、その方の最期を安心・安楽に過ごせるようホーム全体で支えている。医師・看護師とも今後の変化に備え連携している。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退居時に介護サマリーを作成し、管理者・相談員へ情報提供している。転居後も落ち着くまで情報交換を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>理念である「お一人、お一人を思いやる心」で穏やかに接している。又、プライバシーマークを取得している為、本社の指導の下個人情報の管理を実施している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>入居者一人ひとりが自分で決めたり、希望を表したりできるよう、選んでもらう場面を作ったり、選んでもらうのを待ったりすることを心がけ支援している。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>起床時間や就寝時間も一人ひとりのペースを大切にしながら介助しており、日中の過ごし方等も職員から声かけ、促しはするものの、ご本人の希望に添うよう努めている。</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>コミュニケーションをとりながら、一人ひとりに合うちょっとしたおしゃれも楽しめるよう介助している。希望に合わせて、理美容院の利用を支援している。希望により訪問美容の利用も行っている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食器は使いなれたものを使用し、一人ひとりの身体機能や健康状態に合わせた調理方法を取っている。職員は入居者と一緒に食卓を囲み、配膳・片付けも可能な限り手伝ってもらっている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのお酒、飲み物、おやつ、たばこ等を一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>嗜好品は外出時の買い物、ホームでの個人発注で購入したり、家族に持参して頂いたりして楽しんで頂けるよう支援している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンに合わせ、誘導・声掛けを行い、できるだけおむつを使用しないよう支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	自立入浴できる方は、日中いつでも入浴を楽しんで頂けるよう支援している。又、介助量の多い方でも一般浴槽でゆったり入浴して頂けるよう介助方法を工夫検討しながら実施している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	不眠時はお話を聴いたり、飲み物を提供したりし安心して眠れるようその時々に応じ入眠を促している。又、日中の運動・活動に依って安眠できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの能力や性格に合わせお手伝いをして頂くことで役割を担って頂いたり、趣味に合わせた楽しみ事ができるよう工夫し実施している。		個々の身体能力やその日の気分に合わせたお手伝いを無理のないよう増やしていけるよう支援していく。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別にお小遣いをご家族よりお預かりし、希望に応じ使えるよう支援している。外出時買い物の際には、ご本人に支払をしてもらうようにしている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調、天候を考慮しながら散歩やドライブ等行っている。又、希望があれば買い物等個別支援を行っている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節を感じに、入居者と職員でドライブに出掛けたり、希望時に家族と共に楽しく外出できるよう積極的に支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時、電話で話して頂けるよう支援し、手紙は自由に出していただけるよう支援しているが、妄想等の症状のある方に関してはご家族へ出して良い相手かを確認し投函している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	馴染みの方々の来訪は本人にとって大きな楽しみの1つなので、居室でお茶や居間で一緒に食事や談笑して頂けるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	臥床時の2点柵を見直し、危険性の無くなった方は1点のみにした。椅子からの立ち上がる方に関しても静止することなく、危険のないよう見守りができている。ケアの中での取り組みはできている。		身体拘束・虐待について定期的に研修として実施していきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関には鍵をかけず、自由に入出入りができるようにしている。危険防止の為、戸が開くとチャイムが鳴りその都度職員が声かけをしたり、付き添ったりしている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は居間で過ごす入居者が多いが、居室を好まれる方には、食事・お茶・アクティビティ時の声掛けをしながら様子を把握している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	夜間錠で馴染みの服を切る行為のあった入居者に対し、錠をお預かりすると同時に、傾聴を全職員で心掛け、家族の協力を得て本人は落ち着きを取り戻されている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	誤薬防止のため、スタッフ間の声掛けとリストで服薬チェック体制を整備した。一方、事故に繋がらないよに、ヒヤリ・ハットが上手く活用されていない。		ちょっとしたヒヤリを皆で共有し大きな事故を防ぐ体制作りを心がけていく

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成し、いつでも見られる場所に掲示しており、勉強会も実施している。しかし、全職員が適切な対応ができているようにはなっていない。		全職員が緊急時の対応が適切にできるよう、定期的に研修できるよう取り組みたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を事業所内では行っている。		隣家が離れている・以前協力関係にあった診療所も廃止しているため、災害時の対策を検討しなければならない。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居時及び必要に応じ随時、起こり得るリスクを家族等に説明し、話し合い合意の下対応策を決めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調変化に気づいた際には個人の記録と日報に記載、毎朝のミーティングで報告し、対応策を検討その結果を申し送りノートに記載することで、情報の共有を実施している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方説明書はユニットごとに保管し、全職員が確認できる。服薬介助することで確実な服薬ができるよう支援している。確認は職員間の声掛け、チェックリストで行っている。薬が変わった場合は経過観察をし記録、変化見られた場合は医師に相談している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	予防の為、水分を多く摂って頂けるよう飲み物に変化を付けている。又、日中活動的に過ごして頂けるよう体操や散歩を実施している。食後はトイレ誘導して排便を促しているが、必要に応じ主治医の指示により下剤を服用し対応している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりの介助量や介助方法は様々であるが、食後の口腔ケアをできるだけ楽しく支援している。必要に応じ、家族と相談し訪問歯科による口腔ケアを実施している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの咀嚼力・食べられる量に応じ、バランスの良い食事を提供し、水分摂取量と共に毎食記録し、一日トータルで把握している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成し、ミーティング時に内容を確認している。感染予防の為、衛生面に配慮し介助している。(十分であるとはいえない。)		様々な感染症に関する予防と対策を全職員が理解し実施できるよう、日常的に取り組んでいきたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	両ユニット共通として、食中毒予防の為、毎晩調理用具等の塩素消毒を実施している。又、食材は新鮮なうちに調理し、残りものは処分している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	日中は鍵をかけていないバリアフリーの玄関、玄関先にはベンチ・花壇等を施し、気軽に出入りできる雰囲気を作っている。居間から出られるウッドデッキのある中庭には、両ユニットの入居者に愛されている犬が飛び回り癒しの空間となっている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下は幅広く、浴室は両麻痺対応可能な左右対称の浴槽となっており、建物の数か所には天窓を設け自然の明るさを大切にしている。又、居間から見える中庭は広く開放的な作りになっている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広い廊下、玄関近くにはソファや畳を敷いた箱椅子が数か所あり、入居者の中にはお気に入りの場所を持っておられる方がいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は好みにより、洋室・和室が選べ使いなれた馴染みの家具を使用しておられる方が多い。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室にエアコン、換気扇があり、窓の開閉だけでなく、こまめな換気にに努めている。入居者の体調、好みの温度を個々に配慮し居心地の良さを大切にしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレには、手すりが設置されている。浴室は両麻痺対応可能な2つのタイプの浴槽がある。今ある身体機能を安全に活かせるよう支援している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室の入口には分かり易い表札を、トイレ前には見やすい黄色のチューリップの花束を飾り、居間の椅子には馴染みの座布団を置くなどして、混乱、失敗を防ぎ、少しでも自立できるよう工夫している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	居間から出られる中庭には草花、畑があり、犬も遊び日々の日向ぼっこだけでなく、家族の方々とイベントにも使用している。又、建物前の使用されていない駐車場は凸凹が少ないため、安全で散歩だけでなく、歩行練習や車椅子の自操練習にも活用している。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に つけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「心」という理念を掲げ一人ひとりの入居者の心に寄り添うよう支援をしており、個別対応や家族対応ができていると思います。